

トッププレイヤーたちの熱い戦いが始まる

県男子リーグ開幕



優勝旗を受ける清水町クラブ

静岡県男子リーグが三月十二日(日)に開幕。開幕に先立って行

なわれた閉会式で、昨シーズンの優勝の浜松市役所(二部)、清水町クラブ

本年度のリーグ加盟チームは昨年同様、一部・二部併せて14チームが加盟。それぞれ覇権を目指して熱い戦いの火蓋を切った。

落合高志リーグ委員

が、また、最優秀監督、打撃

よび昇格チームがない中で前季予想を「一部

は浜松市役所と鳥建クラブを中心に戦い

が展開される」と語り

を通じて国体東海ブロックを制覇するチームの出現を期待したい」とリーグ加盟チームの奮起を促した。

個人賞の表彰が行われ、後援の静岡新聞社より盾が贈られた。

男子リーグ個人表彰

【一部】

最優秀選手賞・高木俊哉(浜松市役所) 最優秀打撃賞・伊藤安雄(静岡) 最優秀投手賞・吉積慶太(浜松市役所)

マベストナイン

投手・吉積慶太(浜松市役所) 捕手・山元誠(高丘クラブ) 一塁

手・大場俊治(浜松市役所) 二塁手・伊藤安雄(静岡) 三塁手・酒井

久之駿河クラブ) 遊撃手・袴田晋矢(浜松市役所) 外野手・山内正孝(高丘クラブ) 高田竹

志(鳥建クラブ) 勝山浩希(静岡クラブ) D

P賞・鈴木悠一郎(静岡クラブ) 敢闘賞・山田論(千代クラブ)

【二部】

最優秀選手賞・長谷川徹(清水町クラブ) 最優秀打撃賞・中村修(金谷ウインズ) 最優秀投手賞・森野隆嗣(清水町クラブ)

マベストナイン

投手・望月伸公(U.P.クラブ) 捕手・杉本和重(A.B.C.フェロー)

一塁手・松本豊(清水町クラブ) 二塁手・杉村達也(山崎クラブ)

三塁手・尾上清(A.B.C.フェロー) 遊撃手・岸本英樹(U.P.クラブ) 外野手・中村修(金谷ウインズ) 西尾進吾(I.W.A.T.A.C.L.U.B.) 斉藤雄二(清水町クラブ) 敢闘賞・望月佑亮(金谷ウインズ)



個人賞の記念品を受取る選手

取材ノート

プレイヤー重視から観客重視へ

県男子ソフトボール界トップの競技力を有するチーム、選手がエンターテインメントを兼ねて野手のポジショニングをしながら、クラブ県予選大会を見据えた戦いをしたい。

大学選手権で活躍した投手を中心に若手メンバーが加入し、課題だったチームの若返りが出来、戦力が向上した。チームカラーがソフトボール競技を楽しむ事なので、結果に拘らず、前期は五割を目指して戦う。

ボジショニングを行いながら駿河クラブ・大沼監督

俊足巧打と長打力のある二人の野手と、即戦力として長打力のある高校野球経験のある新人がソフトボールに慣れれば、大砲が二本になる。選手育成が目標なので、実力に合った試合運びを心がけ、前期はクラブ県予選大会で対戦するチームの戦力を探りながら、五分で終われば上出来。

開会式の取材を終え、他の会場に移動中、開会式会場にいた若者たちが「どこの練習試合ですか」と訊かれる始末。

云われてみれば、会場入り口には看板もなく、横断幕は張られていないが駐車中の車の陰で見えにくい。試合中

は場内放送もない状況ではソフトボールファンをはじめ部外者では何の大会か何の試合なのか解らないのはムリもない。

ロンドン五輪で競技種目から除外され、サッカーや他のスポーツに比べ、チーム数や愛好者が目減りしている。ソフトボール競技を魅力あるものにするためにも県協会として、県リーグの位置づけをどこに置くのか明確にしてほしい。そしてプレイヤー中心から観客重視のリーグ運営を行う必要を強く感じた。

私とソフトボール 生涯スポーツとして

清水支部・栗田茂宏



小学校のスポーツ記録会でボール投げが担任の先生の目にとまり、ソフトボールと出会い、現在までソフトボールを生業の友として、競技を楽しみ日々が続いている。

その頃、故・牧野巽さん(当時・県理事長)から「指導者を目指せ」と言われ、ウインドミル投法を夢中で覚え、以降中学生・高校生・一般と指導に努めた。指導者としてスタートした頃、個性の強い集団・全清水軍を結成。第34回宮崎国体に出場。二巡目の京都国体から創設された成年部(40歳以上)には好きなタバコを止め、自主特訓してメンバーに選ばれ初代チャンピオンに輝くことが出来た。

成年部が団体種目から除かれるまで競技力を担当する役員として、県内各支部の選抜選手と競技力向上につ

いて対話を重ね、好きなソフトボールに没頭することが出来た。

東部選抜うれしい全国初勝利!

県選抜は栃木戦の雪辱ならず

第二回都道府県対抗大会

第二回都道府県対抗大会が富士宮市の県ソフトボール場で開催された。静岡県から静岡選抜および東部選抜の二チームが出場。静岡県・東部選抜は初戦で強豪鹿兒島選抜を破った若手選抜に

対0で勝ち、三回戦へと駒を進めた。三回戦で県選抜は昨年優勝の栃木選抜と対戦。初回に二本の安打で先制したが三回に追いつかれ、六回に勝ち越し点、七回に追加点を許した。県選抜も五回に二死満塁・最終回に一死一・二塁本が出ず、後一本が出ず、一対三で破れ、昨年準決勝

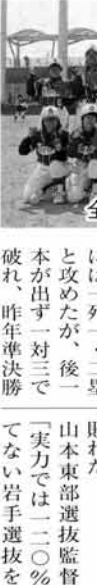
で敗れた雪辱を果たせなかった。栃木戦に必ずしも勝つ必要はないが、悔し涙を流した。泣きじゃくる県選抜メンバーの傍らで天野県選抜監督は「追加点が取れなかったのが最後まで響いた。投手力は栃木の方が勝っていた。投手力強化が今後の課題」と大会を総括。

東部選抜は強豪広島選抜と対戦。若手選抜を破った二回戦の勢いを維持しながら戦ったが、強打、好投手を誇る広島選抜に0対4で敗れた。

山本東部選抜監督は「実力では二〇%勝てない若手選抜を破

り、全国大会で良く一勝することが出来た。選手は実力以上のものを出してくれた。全員ソフトが出来たので満足」と東部勢としては初となる全国大会の勝利を噛みしめながら、今大会を振り返った。

全国大会初勝利の東部選抜



全国大会初勝利の東部選抜

若い内野手が加入したものの即戦力までには行かず、戦力的には昨年と変化はない。投手陣は吉積と四年目の鈴木のみ。攻撃面は俊足の高木と突破口を開き、クリンナップで得点を重ねるパターン。今年も優勝を狙う。

王座奪還に燃える鳥建クラブ・保坂監督

昨年はずり失点差で優勝を逃した。失点を最小限に抑えるため、守備陣の強化を行った。攻撃陣もクリンナップを任せられる選手を補強。メンバー全員準備

勝に終わった悔しさもあり、王座奪還に燃えている。昨年出来なかった男子全種目の完全制覇を狙う。

基礎体力を鍛え少数精鋭で、静岡・森監督

メンパーも戦力も昨年と変わらず、小教精鋭で戦う。選手層が薄いので故障者を出さぬよう、練習前のトレーニングを十分に行い、基礎体力を鍛えたい。四月九日の実業団県予選大会に、いい感じで臨めるよう頑張る。

前期は勝ち越しを狙う千代クラブ・山梨監督

国体メンバー(県代表)の加入と、怪我で戦列を離れていた大砲が戻ったので攻撃力が